

2025年9月7日

日本心理学会第89回大会公募シンポジウム
「宗教を信じる(信念、信仰)とはいかなることか?
—実証的宗教心理学の挑戦(4)—」

宗教学において「信じる(信念・信仰)」は
どのように語られているのか

國學院大學
藤井修平

宗教学において「信じること」および「信念・信仰(beliefまたはfaith)」は中心的な概念である。その扱われ方はさまざまで、信仰こそが宗教自体よりも重要だという見方もあるれば、信仰の重視はキリスト教プロテスタント的な姿勢であり、信じることより実践に目を向けるべきという意見もある。

本発表では、シンポジウムにおける議論の出発点として、宗教学における「信じる・信念・信仰」に関するこれまでの定義や研究を概観し、この概念の整理を試みる。

「信念」の心理学における定義

3

確定的でない証拠に基づきながら
真と受け入れられる命題の総称
(Colman, 2004, p. 352)

ある対象とその他の対象、価値、概念および属性との関係性の認知である。信念は、日常的な用法ではかなり動機づけ的要素が含まれるが、概念としてはもっと広義に捉えられ、信仰、迷信、偏見、ステレオタイプ、イデオロギー、妄想などのほかに知識も含まれる
(中島他, 1999, p. 453)

何かを信じている状態の、認知、動機づけ、感情の複合体の総称。さらに、複数の信念が相互に連合している場合、信念体系とよぶ。
「何々は何々である」あるいは「べきである」という命題を保持、あるいは信じている点が特徴であり、対象についての好悪評価に主に関連する態度と異なり、命題の内容は複雑な条件文である場合もみられる。その信念の確信度はさまざまでありうるが、主体にとって通常、容易には変容しにくい感情や動機づけを伴うことが多く、信念への反対意見や反証は拒否感をもって反応される（子安他, 2021, p. 403）

「信念」の心理学における定義

4

知識の哲学においては、「正当化された真なる信念」が知識であるとされる。つまり、何らかの意見のうち、客観的な根拠によって正しいとされるものが知識、そうでないものが単なる信念ということである(戸田山, 2002)。

心理学における信念の定義は、この内容を踏まえつつ、「動機づけに関連する」「態度と対置される」「容易には変容しにくい」という特徴を見出している。

その一方で、心理学では「信仰」はまず扱われない。

宗教における「信仰」

5

宗教とその研究である宗教学における「信仰」は、こうした「信念」と共通する点もあるが、独自の要素も見られる。

注目すべきなのは、信仰が多くの宗教にとってきわめて根本的なものとみなされている点である。

キリスト教においては、新約聖書「ヨハネによる福音書」の「疑い深きトマス」の逸話がしばしば言及される。

キリスト教における「信仰」

6

十二使徒の一人トマスは、イエスが十字架にかけられた後に復活したという話を聞いても「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をその脇腹に入れなければ、私は決して信じない」(ヨハネ20:25)と信じなかつた。

その後現れたイエスの脇腹に手を入れたトマスはその復活を信じるが、それに対してイエスは、「私を見たから信じたのか。見ないで信じる人は、幸いである」(ヨハネ20:29)と言つた。これが信仰の根本を示しているとされるが、この箇所は妄信を意味しているわけではないと解釈されることもある。

キリスト教における「信仰」

7

聖書にはまた、「信仰とは、望んでいる事柄の実質であって、見えないものを確証するものです」(ヘブライ人への手紙 11:1)とも記されている。『キリスト教大事典』ではこのように述べられている。

キリスト教では、イエス・キリストの中で自己を啓示する神に対して人間がとる態度と関係のことをいう…人間は信仰の中でのみ神の前に義とされるのであり、また人間に対する神の行動全体は信仰の中でのみ人間に働きを始めることができ、そして人間はそれがいかなるものかを理解することができる。したがって信仰は信頼という言葉に換えてよい…信仰は聖書を神の言として認識し、また承認することなくしてはあり得ない（日本基督教協議会文書事業部・キリスト教大事典編集委員会, 1977, p. 453）

仏教における「信仰」

8

仏教においては、「信心」が信仰に対応するものとして主に用いられてきた。それは「仏の教えを信じて疑わない心」(中村, 1975, p. 777)であり、

他にも信教、信行、信解(しんげ)、信仰(しんごう)、信男信女、信念、信法、信力など多数の派生語が存在する。

信念と信仰の違い

9

信念と信仰の違いとして重要なのは、信仰には「何らかの命題を真であると思うこと」以上の何かがあるということである。信仰には「忠誠・従順さ・信頼・依存・経験」の側面があるとされ(Eliade, 1987)、『宗教学辞典』はこう規定している。

信仰は、人間が、過去のこと（教祖、教典、教団）が現在の「私」を未来に向って、希望（恐れや悲しみを超えて）、畏敬（かしこみ慎み、おそれ仰ぐ）の心的状況をもつことを意味する。この「信仰」が人間理性を超えた献身、自己投棄であるのに対し、「知識」は人間理性の能力によるものであって…明らかに現実的世界にかぎられている…信仰とは人生観のもっとも根源的なものとなっているから、生死の巔頭に立って人間が生死を越えて永遠なるもの（神とも仏ともいってよい）に身をまかす所以の根拠となるものである（小口・堀, 1973, pp.409-410）

信念

- 何らかの客観的には正当化されない命題を受け入れ、正しいと確信をもつこと
- 感情や動機づけを伴う
- 真偽、存否に関するものであって好悪に関する態度とは区別される
- 反証をもってしても容易には捨て去られない

信仰

- 神的存在を信頼し、それに帰依し、忠誠を誓う心のあり方
- ある存在や観念を人生の中心に据え、全力をもって身を捧げる態度や関係性

宗教学者W・C・スミスは、個人の人格的信仰こそが本質であり、宗教という概念はこの本質を歪曲するものにすぎないと主張した。

生き生きとした信仰は、自分の仲間たちと自分自身とに対する、そしてこの世界の創造者や根拠や総体に対する、清純で誠実な関係性を含んでいる（スミス, 2021, p. 172）

自分の信仰が直接的で差し迫ったもの、深いものであればあるほど、それだけその人は宗教と呼ばれるうる何ものかをはるかに超越する何か、ないし誰かといっそう深く関わっている。宗教というこの概念は、基本的に、その人の宗教性にとって邪魔物なのである（スミス, 2021, p. 171）

他方で磯前(2003)は、信仰こそが宗教の本質とする姿勢は、「信仰のみ」を唱えたルター以来のプロテスタンティズムに由来するものであり、明確な教義のかたちをとるビリーフが重視され、非言語的な儀礼行為を主とするプラクティスは副次的なものとみなされる現代の宗教理解は偏っていると指摘する。

それゆえ近年の日本宗教の研究では、この「ビリーフ中心主義」に抗してプラクティスに着目するものが増えている(大谷, 2012; 小林, 2022)

ビリーフ対プラクティスの図式はいくつかの側面に分けることができる。

- » 内的なもの(観察不能)／外的なもの(観察可能)
- » 内部者の視点(主観)／外部者の視点(客観)
- » 西洋プロテスタンティズム・スピリチュアリティ／佛教・神道

内的なもの／外的なもの

14

ビリーフ／プラクティスの二分法を、観察不能な内的なものと、観察可能な外的なものという形で理解すると、それは心理学における行動主義の興隆と、以後の緩やかな否定に重なる。

宗教心理学は20世紀後半までは冬の時代だったとされるが（藤井, 2023）、それは当分野が主に依拠するプロテスタンティズムが信仰を重視していたのに対し、行動主義はそうした内的なものを否定していたためかもしれない。

他方で、近年のスピリチュアリティへの着目は、心理学における心や認知の復権と並行している。

そのためこの問題は、

- » 内的心理を質問紙などの手法によって客観的に把握することができるのか

という問いや、とりわけ宗教心理学における

- » 「宗教性」を知るためにには信仰と行動、どちらがより重要なのか
- » 信仰やスピリチュアリティを重視する姿勢は西洋中心主義的ではないか

という問題と関わってくるのである。

- Colman, A. M. (2001). *A dictionary of psychology*. Oxford University Press.
- (Colman, A. M. 藤永 保・仲 真紀子(監修)岡ノ谷 一夫ほか(訳)(2004). 心理学辞典 丸善)
- Eliade, M. (Ed.). (1987). *The encyclopedia of religion*. Macmillan.
- 藤井 修平 (2023). 宗教心理学の展望——分野の構成, 研究テーマ, 課題の分析 宗教／スピリチュアリティ心理学研究, 1(1), 18-32.
- 磯前 順一 (2003) 近代日本の宗教言説とその系譜——宗教・国家・神道 岩波書店
- 小林 悅道 (2022) 近代仏教教団と戦争——日清・日露戦争期を中心に 法藏館
- 子安 増生・丹野 義彦・箱田 裕司(監修)(2021). 有斐閣 現代心理学辞典 有斐閣
- 中島 義明ほか (編)(1999). 心理学辞典 有斐閣

参考文献

17

- 中村 元(1975). 仏教語大辞典 東京書籍
- 日本基督教協議会文書事業部・キリスト教大事典編集委員会(編)(1977). キリスト教大事典
改訂新版第4版 教文館
- 小口 偉一・堀 一郎(監修)(1973). 宗教学辞典 東京大学出版会
- 大谷 栄一(2012). 近代仏教という視座——戦争・アジア・社会主义 ペリカン社
- Smith, W. C. (1991). *The meaning and end of religion : a new approach to the religious traditions of mankind.* Fortress Press.
- (スミス, W. C. 保呂 篤彦・山田 庄太郎(訳)(2021). 宗教の意味と終極——人類の諸宗教伝統への新しいアプローチ 国書刊行会)
- 戸田山 和久 (2002) 知識の哲学 産業図書

ご清聴
ありがとうございました

Mail: yrsk.f@nifty.com

本研究はJSPS科研費 JP23K12021の助成を受けたものです。